

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ライラック 東ユニット	評価実施年月日	H20.7.1 ~ H20.8.20
評価実施構成員氏名	島津・金田・高木・志摩・鳥本・松浦・島田・篠垣・古関・関口・関根		
記録者氏名	島津	記録年月日	H20.8.31

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
○ 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	日常生活において、家庭的な環境の中で安心できるように、また自分らしく生活していただける様に支援しています。	○	地域の方や面会の方が来訪された折は、お茶やコーヒーをお出して、ゆっくり過ごしていただけるよう心がけています。
○ 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の申し送り時には、「ゆったり穏やかに」、「自分らしく過ごしていただく」という理念と方針を全員で唱和して、共有しています。	○	理念を見やすい場所に掲示したり、スタッフ全員のネームに入れ、常に意識できるようにしています。
○ 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族や地域の方を交えて行う運営会議の場や、面会時、また毎月発行するお便り「日常の様子」などの中で、折に触れて理解していただくよう努めています。		
2. 地域との支えあい			
○ 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	職員や入居者は、隣近所の方々と挨拶や会話を交わすなど、親しくお付き合いさせていただいています。	○	近隣の方から空き地をお借りし、畑を作って野菜を植えています。利用者の活動の場のひとつとして活用させていただいています。
○ 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の代表的なお祭り(永山祭り、屯田祭り、盆踊り等)は、地域の方との良い交流の場になっています。	○	当法人が主催して祭りをを行っています。利用者やご家族の方々をはじめ、大勢の地域住民に参加していただき、大変楽しまれています。
○ 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会との交流は現在のところ特にありませんが、当法人内には、介護相談や介護教室などの場を設けています。	○	介護教室や介護相談は、地域の方に利用される頻度が高くなってきています。今後も気軽に多くの方に利用していただけるよう、宣伝やサービスの向上に力を入れたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は、職員全員に対して自己評価の意義を説明しています。職員自らが日頃の業務を振り返り、改善点を明確にすることで、サービスの質を向上できるよう努めています。	○	業務の振り返りの結果、明らかになった課題は、職場全体で共有し、具体的に改善できるよう取り組みます。
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議は2～3か月に1度開催しています。参加者の要望や意見を反映し、活かすようにしています。	○	当ホームのある場所が分かりづらいというご意見をいただいたので、分かりやすい場所に職員が手づくりで看板を制作しました。また、介護老人保健施設の種類や、利用方法を教えてほしいというご質問をいただいたので、当ホームで資料を作成し、説明させていただきました。
9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	包括支援センターの職員の方と連携を取り、永山地区にあるホームの交流見学会や、研修に参加しています。	○	永山地区のホーム交流見学会では、各ホーム内の様子や取り組みがよく分かり、参考になります。
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者と職員は、研修で制度や意義を学んでいます。権利擁護制度の利用を希望される方を支援しています。	○	現在、当ホームの利用者で後見人制度を利用されている方が1人いらっしゃいます。必要時の連絡・相談・援助を行いました。
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	報道番組や新聞などをチェックし、職員が虐待問題について話し合うようにしています。問題意識を常に忘れないよう心がけています。	○	勉強会や研修会で学び合い、利用者が安全・安楽に過ごせるよう努めています。
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・解約時は利用者のご家族に資料を配布します。十分な説明を行い、同意を得ています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	サービス委員会でアンケートを実施しています。また、ホーム内に意見箱を設置し、ご意見を受け付けています。	○	苦情をいただいた際は早急に対応し、改善に努めています。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	1か月に1回、「日常の便り」を送付し、生活の様子や健康状態、金銭の使用状況などについて報告しています。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	サービス委員会でアンケートを実施しています。また、ホーム内に意見箱を設置し、ご意見を受け付けています。	○	苦情をいただいた際は早急に対応し、改善に努めています。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議やユニット会議の場で、随時反映させています。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	緊急時や必要時は、状況に合わせて勤務調整を行っています。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	現時点では退職を除いて職員の異動はありません。馴染みの職員によって支援が行われ、利用者からも遠慮なく日常の相談や訴えを受けています。	○	職員と利用者が親しくなりすぎて、時々言葉遣いがざっくばらんになってしまうなど、馴れ合ってしまう傾向が見られます。今後は気持ちを引き締めて丁寧な言葉遣いを心がけるよう、努めていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	計画を立て、段階に応じて法人内外の研修に参加しています。職員同士が報告し合って介護の質の向上に努めています。	○	平成20年は、パートは年2回以上、職員は年5回以上研修に参加することを目標としています。
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修の中の勉強会や意見・情報交換が参考になり、大変役立っています。	○	地域包括支援センターのケアマネ交流や研修では、ホームの見学や情報交換ができ、それぞれの悩みや苦労を分かち合える良い機会になっています。
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は、職員の意見を聞いてくれています。	○	当法人や当ホームが主催して親睦会などの行事が年に5～6回開催され、楽しみ交流ができています。
22	○ 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者は、職員の家庭の事情による勤務時間や場所の希望などを折に触れて聞くよう努めています。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人はもとより、以前入所していた先の情報も含めて、話を伺います。本人や家族の不安や悩みを聞き、安心して利用していただけるよう配慮しています。		
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでの生活状態や習慣、病歴等の情報を収集します。継続性を保ち、その人らしい生活を送っていただくために家族とのコミュニケーションを密にしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の希望に応じて、判断し、対応しています。	○	現在は家族の希望があり、訪問マッサージやリハビリ等を利用しています。(利用者3名)
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所希望があったときは、職員が利用希望者に面会します。まずは顔見知りになり、それからコミュニケーションを取ったり見学に誘うなどして、徐々に馴染めるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	畑でのトマト作りや料理の方法等、利用者が昔経験したことや得意とされていたことを職員が教えていただいています。また、その際にはお礼を言うように心がけています。	○	畑のトマトを1人1本と決めて、職員と一緒に育てています。昔を思い出したり、育てることの喜びを分かち合ったり、共に支え合う関係を築いています。
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族のホーム来訪時には笑顔で対応し、話しやすい雰囲気作りを心掛けています。日常の様子や身体状況を伝える等、コミュニケーションを大切にしています。	○	
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	なるべく面会の機会を多くしていただき、利用者と家族とのコミュニケーションを図る機会を多くしています。	○	帰宅願望が強く、不穏が見られる利用者には、ご家族に相談して、面会や外出を協力していただいています。
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	友人の方とは、便りで近況を知らせ合うよう促しています。また、年に何度か家族と一緒に合う機会を設け、関係が継続できるよう支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士、車椅子を押して介助しています。また、食事やお茶の時は利用者同士、手を繋いで食堂に来られる姿が見られます。	○	日中、食堂でマージャンや将棋、五目並べなどの娯楽を利用者同士が楽しんでいます。関わり合い、孤立することのないよう、コミュニケーションの活発化を支援しています。
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	健康状態が悪化して入院・退居された利用者の家族も訪問・相談をしに来られ対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの想いや希望を取り入れ、マージャン・将棋・カラオケ・工作・読書・テレビ等の趣味や暮らし方を取り入れる等しています。本人の意向に合わせ、自分らしく生活していただけるよう、配慮しています。		
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴などの情報を利用者や御家族からいただき、フェイスシートに書き入れ、把握に努めています。		
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	それぞれの心身の状態を観察し、その人に合ったペースでの日常生活・役割・活動を取り入れ、安定した生活が送れるよう支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	アセスメントに基づき、利用者本人の意向を尊重し利用者主体のプランを立て、全職員で話し合いを行っています。最終的に介護支援専門員が確認を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に介護計画の見直しを行い、状態変化に応じ、その都度新たな計画を作成し、本人・家族の同意を得ています。	○	介護支援専門員が適切に確認しています。
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常的に個々の記録をとり、行動や特変、気づきを具体的に反映しています。	○	日々の記録を反映して介護計画に活かしています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、ご家族の状況に応じて受診、床屋、散歩、買い物の支援を行っています。	○	訪問診療、マッサージ、床屋を、定期的の実施しています。他科受診も状況に応じ支援しています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	生活保護受給者の方もおられる為、民生委員の協力をいただいています。	○	永山地区の民生委員の方は、時々利用者の顔を見に来て下さいます。
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご家族、利用者が希望すれば他のサービスも支援し対応しています。	○	訪問マッサージ・訪問リハビリなどが利用されています。
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護制度など、不明な点を相談し指導を受けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療法人がバックアップ機関になっており、主治医・看護職員とも顔馴染みです。日中は担当NSが毎日来訪し、健康管理をしています。 夜間の急変時にも法人で対応しています。	○	・医療加算体制をとっています。月2回の往診があり、主治医・担当NSの連携もスムーズに行われています。
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	異変時には主治医に相談し、必要に応じて指示受けや受診を行っています。	○	待ち時間に配慮していただき、順番が来たら電話連絡をもらい受診しています。
45	○ 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎日、担当看護師が来訪し利用者の健康チェック・管理を行っています。	○	利用者の異変時には即NSへ報告し、対応しています。
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の際には病院との連携を密にして情報交換をし、早期退院に向けて備えています。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現時点で重度化した場合は、病院にて受診し入院になるケースが殆どです。	○	家族に相談した結果、重度化した場合は病院で診て欲しいとの希望が多くありました。
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入所時に本人家族の意向を確認します。状態の変化に応じて関係機関と連絡調整をし、都度対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○ 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	容態悪化による入院等で退所・住替えをされる時は、利用者やご家族にとって不安のない様、情報提供や紹介を行い、ダメージを防ぐ様努めています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員がトイレ・居室等に入る際は必ずノックをし、会話においても尊厳を傷つけないように配慮しています。	○	個人情報・記録等は所定の場所にて保管し、個人情報保護に努めています。
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	わかりやすく簡単な言葉で説明し、入浴の時間や洋服、外出の希望、食べ物飲み物等は利用者の意向に合わせる様、働きかけています。(行事・レクの参加についても同様)	○	誕生日には一人ひとりの希望に合わせ、寿司・赤飯等好みのものを選択していただき、準備します。
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できるだけ利用者の希望を取り入れて、散歩・ゲーム手伝い等を企画します。将棋・囲碁も相手を見つけながら楽しまれています。その人のペースを大切に見守り支援しています。	○	個人のペースを尊重し、入浴の順番・食事の時間等は利用者の希望があれば調整しています。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	日常・入浴後・外出・行事等、TPOに合わせて洋服選びのアドバイスを行っています。毎朝、きちんとお化粧されている利用者がいます。	○	月2回床屋さんが来訪し希望に応じています。利用者の望む店があれば家族が連れて行かれることもあります。
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と共に会話を楽しみながら、配膳や盛り付け、下膳、テーブル拭きなどを積極的にお手伝いする利用者がいます。また、時には外食や出前などといった食事を楽しめる利用者もいらっしゃいます。	○	入居者への嗜好調査を踏まえて、なるべく好みのものを取り入れています。嫌いなメニューの時には別メニューで対応しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者が希望するおやつや果物・飲み物は、家族との話し合いの下で用意し、希望時に楽しめる様にしています。	○	間食は、糖尿や心臓病等の病状・体調を考慮して、ほどよい摂取量を配慮しています。
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンやサインを知り、トイレ誘導を行い失禁や汚染を少なくする様努めています。	○	トイレへの声かけ誘導、またはRHパンツの汚染の有無の確認を行い清潔の保持に努めています。
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間や長さは希望に合わせて行っており、拒否が見られた時は時間・日にちを変更して行っています。	○	シャワー浴、湯船にゆったり浸かる等、その人に合った形で入浴していただいています。
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調や眠気の為、食事を皆と一緒に摂れない時は時間をずらして頂く様にしています。	○	利用者一人ひとりの体調に合わせて居室で休んだり、ゆったり過ごせるよう配慮しています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	洗濯たたみ・テーブル拭き等は日常化しており、花や野菜の手入れ、カラオケ・マーじゃん・将棋・散歩など個々に活動しています。テレビも好きな番組を楽しんでいただける様配慮しています。	○	利用者の意見を聞き、その日を楽しく過ごしていただいています。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの方が金銭の管理が困難なので、ご家族の了承のもとでホーム預かりとして管理しています。	○	買い物・外出の際には、判断能力のある利用者の方に対しては見守りの中で支払いまで自分で済ませていただいています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの意志に沿って、行きたい所があれば支援しています。(買い物・自宅・美容室等)	○	夏は行事や散歩など外出の機会を多くして、戸外での活動を楽しめるようにしています。
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者の意見も取り入れながら、行事や外出を企画し、ご家族にも参加を呼びかけています。	○	莓狩り・さくらんぼ狩り・買い物ツアー・外食・ドライブ・花見等を企画しました。家族の参加も呼びかけて楽しい時間を過ごしていただいています。
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や友人への電話がある時は希望や必要に応じ、その都度対応しています。手紙がよく届く利用者があり、とても喜ばれ返事も書いておられます。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気兼ねなく訪問していただけるように笑顔での挨拶を心がけ、お茶を煎れおもてなしをしています。	○	利用者のご主人が毎日面会に来られ、共にTVを観たり、夕食後は入眠まで見守られたりしている方もおられる。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は基本的には禁止とし、そのことを職員全体で理解する様に会議・研修にて情報共有しています。	○	身体的拘束は行っていません。
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中から消灯までは施錠せずドアに鈴を付け、その音で出入りを察する様対応しています。基本的には自由に出入りしています。	○	やむを得ず施錠が必要な時はご家族に説明をし、その理由を明確にしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○ 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員が、居室やトイレなどで利用者の居所を確認する際は、必ずノックをするよう心がけています。廊下でも声かけを意識的に行っています。	○	入居者一人ひとりの状態を把握し、居室やトイレを定期的に見回っています。
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じ(裁縫道具・はさみ・ナイフ等)管理を任せている場合もあります。ただし、危険だと判断される場合はホームで管理し、必要時に手渡しして、見守りの下で使用していただいています。	○	ナイフや縫い針の使用時は、そばで職員が見守り確認しています。
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止委員会を設置し、報告会を行うなどして事故防止に努めています。	○	火災訓練を行ったりビデオを用いての勉強会や研修会に全員で参加しています。学び合い、事故防止に努めています。
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命講習を受け、指導を受けました。	○	心肺蘇生とAED(自動体外式除細動器)の使用法、止血法の実技訓練を受けました。
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	現時点では法人内の緊急連絡網があり、組織での協力を想定しています。	○	ホーム内での火災訓練を行い対応に備えています。
72	○ リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族の来訪時には、必要に応じて起こりうるリスクの説明を行い、理解していただく様に努めています。	○	家族とのコミュニケーションを密にし、日常生活の情報を伝え共有しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、全員のバイタルチェックを行い、ADLの変化をチェックしています。情報を共有し早期対応に努めている。	○	異変時には顔色や意識レベルの確認、むくみ等の確認を行っています。情報を共有し、異変時には速やかにDrに報告、対応しています。
74	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人毎のファイルに、服用している薬の説明書を添付しており、職員がいつでも見られる状態にしています。内服薬の変更時には、効能や副作用の特徴についてしっかり把握する様、職員全体で心がけています。	○	内服時はダブルチェックを行い、誤って服薬することのないよう努めています。
75	○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘には下剤や腹部マッサージにて対応します。予防と改善の為に水分補給・繊維食物等を多く摂る様工夫し、身体を動かす機会を多く設ける様努めています	○	日常的に体を動かせる様、レクや体操、散歩を企画しています。
76	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	基本的に自力でのうがい・歯磨きを促していますが、出来ない部分は介助し、残査が無いかどうか、常に口腔内の清潔保持に努めています。		
77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考えて献立を作成します。個人の健康状態に合わせて食事や味付けを変え、水分や食事量のチェックを行っています。	○	歯の悪い利用者のために、食材を細かく刻んでいます。また食欲のない利用者には、メニューを彩りのよいものにするなど、工夫をしています。
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	法人内に感染委員会があり、予防や対応に努めています。	○	食器類は、毎回殺菌・消毒をしています。うがい・手洗いを励行し、身辺の清潔保持に努め、感染症を予防しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所には殺菌・消毒の設備が完備され、日常活用し、食材に於ても都度、新鮮で安全なものを利用している。	○	使用済みの包丁や布巾、まな板は殺菌灯や漂白剤を使って消毒しています。食器は洗浄後、乾燥機にて消毒しています。手をこまめに洗い、生ものには十分配慮している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りにプランターを置き、家庭的な雰囲気を作っています。玄関の出入り口には手すりや腰掛けも設備し、安全に配慮しています。	○	玄関先や中庭に椅子を置いて、腰掛けて花を眺めたり、一休み出来る様にしています。施設周りの草とりも担当を決めて行っています。
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が落ち着いて暮らせる様に、TVの音量・遮光・日差し・会話のトーン等、その都度状態に合わせ調整しています。	○	毎週、生け花の先生が来て花を生けて下さるのを、利用者も職員も楽しみにしています。食堂の壁や居室の入り口など、季節の飾り物(ひな祭り、鯉のぼりなど)を作り飾っています。
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳敷きの談話室では、一人でテレビ鑑賞や昼寝ができるようになっています。また、廊下のソファでは気の合う利用者同士が会話や洗濯たたみ等を行ったりできるよう、居心地の良い居場所を確保しています。	○	食堂では、食事・お茶以外にマージャン・花札・オセロ・将棋・囲碁、他にカラオケ等を用意しており、利用者は好きな人と好きなことを楽しんでいます。
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた生活用品を持ち込んだり、居室の窓辺には鉢植えの花や小物を飾ることができます。利用者が自分の居心地の良い空間をつくれるようになっています。	○	仏壇・テレビ・冷蔵庫を自由に持ち込み、家族の写真を置いたり個々に安心して過ごせる場所をつくっています。
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気をまめに行い、各室に湿温計を設備し配慮しています。	○	状況に応じてクーラーを活用しています。その際には冷やし過ぎや、暖め過ぎに注意しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○ 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活上、必要と考えられるところに手すり・滑り止め・便座の背もたれ等を設備し、自立した生活が送れる様、工夫している。		
86	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの能力に合わせ、盛りつけ・畑仕事・洗濯たたみ・テーブル拭き・工作・手芸等、得意なことや出来ることを見つけ、日常生活で活かし、自立へ繋げています。	○	「ライラック百寿大学」という学校のようなレクリエーションを企画し、音読や計算、習字などに取り組んでいます。脳の活性化や能力維持に効果が出ており、利用者みなさんも喜んで参加して、楽しんでおられます。
87	○ 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭には花畑や野菜畑があり、手入れをしたり散歩が出来る活動のスペースがあり楽しまれています。		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている ○ 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が ○ 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）。

利用者の一人ひとりが自分らしく生活できるよう、努めています。それぞれの生活歴や、性格、趣味などを見極めて職員全体で情報を共有し、ゆったり快適な生活をしていただけるように環境を整えています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームライラック 西ユニット	評価実施年月日	平成20年8月23日
評価実施構成員氏名	蟹瀬 佐々木 清水 佐藤		
記録者氏名	蟹瀬	記録年月日	平成20年8月23日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
○ 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	一人ひとりのご利用者が自分らしく暮らしていただけるよう個性を大切に出来るための支援を理念や方針に掲げ実施している。		
○ 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	館内の掲示、朝の申し送りでの唱和などで考えの中に浸透されている。	○	ケアの方向などを検討するときにも、自然とご利用者を尊重する内容で提案されるようになっている。
○ 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	館内の掲示、運営推進会議での周知など行っている。		
2. 地域との支えあい			
○ 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣の方や、散歩の途中で会う町内の方など、お花やお花の種をいただける関係作りを行えている。また、近隣の子供たちが来訪してくれ交流も出来ている。		
○ 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	屯田祭りや盆踊りなど、地域の方々と交流し楽しめる機会がある。		
○ 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議で、質問されることなどこちらから提供できる情報を知り、次回の会議などで生かしている。	○	高齢者施設の種類の違いについて情報を提供した。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	日々のケアを振り返る良い機会となり、評価の結果を通してスタッフらと見直し話し合い、次の改善に生かしている。		
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議にてホームの現状を公表し、知っていただく機会とし、ご利用者の参加により実際に生活の状況を把握してもらえるように活用している。 また、頂いた意見から地域の必要としている情報を把握し提供に努めている。		
9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市が主催する集団指導や研修には必ず参加しており、そこで得た情報を基に日々のサービス改善に努めている。		
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	まだ勉強が足りず、制度の内容について勉強できる機会を持ちたい	○	研修への参加や、制度を調べ勉強会で取り入れていきたい
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する勉強会に参加することや、実際におきている事件の記事などを活用しながらスタッフらと話し合う場を持ち、自分たちのケアに間違いがないよう振り返りを行なっている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学に来られた時や、入居のときに時間を充分にとり話し合える場を持つようにしている。	○	重要事項説明書を詳しくすることで話し合いのときも活用できている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1度、法人のサービス委員会によるアンケート調査をご利用者、ご家族に宛て行なっている。 日々の希望や意見も聞き取れるよう、会話を大切にしている。	○	頂いた意見を基に、施設内の設備の改善や、サービスの改善に役立てている
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月初めに先月分の請求書と共に、生活の様子や受診の内容などを書いたお便りを、小遣いの使用明細を同封し送っている。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1度のアンケート調査と、普段からの会話を大切にすることで、意見などを伝えてもらえる環境を作り、頂いた意見から改善に努めている。	○	食堂への冷蔵庫の設置はご家族からご利用者が自由に水分補給を出来る環境があっては・と言う意見をいただき実施した。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング(月2回)と日々のコミュニケーションで意見などを汲み取り、サービスの改善や行事の企画など行なっている。	○	ご利用者それぞれを観察した意見から食事の内容を見直したり、焼肉の行事計画など行なっている。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じ、スタッフの勤務変更など行なっている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今のところ異動はなく、馴染みのスタッフで取り組んでいるが、異動の時にはご利用者のレベルに合わせて説明や、スタッフ側へもご利用者それぞれの対応の違いの説明をする。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ISOの計画を活用し、研修への参加を積極的に行うことや、ミーティングでの勉強会も行なっている。 また、ケアの取り組み方など、お互いに助言しあえるようにしている。		
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域包括支援センターが主催する相互訪問に積極的に参加・活用している。そこで顔見知りになる他施設の方々と情報交換など行なえるようになった。	○	訪問リハビリの情報や食事の情報交換や、情報提供をしている。
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩時間や場所の確保。 スタッフも楽しめるような行事を計画する。業務で負担を感じるようなことがあったら直ぐに交代や協力をし、一息つけるよう配慮。 法人主催のビールパーティや忘年会などに参加し仕事から離れた関係作りも行なっている。		
22	○ 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	スタッフからの希望や提案を皆で取り組めるよう検討・実行することや、ケアの良い変化などを評価できるよう取り組んでいる。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に本人と面談する機会はまだ持てておらず、今後も課題としたい。		
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学の際に話し合いの場をもうけることや、入居までの間にも何でも不安などあれば連絡をもらえるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の中から、どのような支援のニーズがあるかを受けとめ、こちらとしてはどのような対応が出来るかも伝え、サービスを進めるようにしている。	○	リハビリを継続して行きたい方がおり、訪問リハの導入を行なった。
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	徐々に他利用者と関われる場を作ることや、本人の好みの分野を活用しなじめるよう心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	食事の準備や畑仕事、花の手入れ、縫い物など日々の生活の中でご利用者から教えていただいたり、助けてもらうことなど同じ生活者としての立場で過ごすようにしている。		
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	在宅時の様子などをご家族より聞いたり、ご利用者の現状を分かりやすく説明し、出来ること・支援時のポイントなどをご家族に伝え理解してもらえよう努めている。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご利用者とご家族が触れ合えるよう、外出や外泊、面会などは積極的に行なってもらい、来所時には普段の様子、楽しいエピソード等、ポジティブな情報や心身の状況も伝え協力してもらっている。	○	各行事の時にはご家族へも声を掛け、参加協力をあおいでいる
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	以前入所していた施設への訪問や、他施設へ移った友人のところへの面会、住んでいた町や場所へのドライブなど支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の座席など配慮し、状況に応じて席替えを行なっている。		
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後の来訪などにも快く迎えている。 入院中などもお見舞いに行くなど関係が継続できるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	個別に趣味活動を継続して楽しめるような環境作りや定期的な自宅への外出など、ご家族とのふれあいの時間を大切にしている。	○	玄関の花のみずやりなどご自分から行動を起こしてくれる場合には優先して支援できるよう努めている。
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の情報や、入所後もご家族より生活歴などの情報を教えてもらうなど把握に努めている。		
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご利用者の好み、体調、性格などを把握した上で活動内容を考えながら、集団で行なうものや、個別で行うものなど変化をつけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の得意なことを生かすことや、体調の留意点、生活上必要なポイントを取り入れるようにし、作成の際にはご家族やスタッフとも話し合い行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期のプラン見直しを行い変更も行なうが、状況に応じプランの期間中であっても変更をかけ、ご家族にも説明をしている。		
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日勤・夜勤で気になることやケアで気をつけたこと、うまくいったことなど記録に残し、ケアの統一につなげている。 ケアプランに沿って行ったケアのことなども記録に残す。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	同法人の病院より月2回の訪問診療が受けられるほか、必要に応じて検査を受けられる。また、月に一度訪問理容が来れることや、訪問リハビリも活用できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	高齢者文化祭に出展するようになってから、ご利用者から今年は何を出展したいなど前向きな希望が聞かれ、支援することが出来ている。		
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他施設から移ってきた際に、リハビリを継続して受けたいとの希望があり、訪問リハビリを活用する支援を行なった。	○	グループホームでも訪問看護などの利用が可能になったことを知り、支援につながった。
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	研修や訪問などで定期的に包括のスタッフと話せる機会があり、ケアプランのことなど相談にのってもらっている。	○	ケアプランの期間の設定や、記録の取り方について助言をもらった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携で、同法人内の在宅介護支援センターの看護師が毎日来てくれることや、病院との連携を図ってくれている事で、変調時もスムーズに受診や主治医との相談が出来ている。月に2度の往診も受けられているため、ご家族にも安心していただけている。		
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	同法人の主治医が症状の変化などにも相談にのってもらえ、治療なども受けられている。		
45	○ 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携で、同法人内の在宅介護支援センターの看護師が毎日状態の把握に来てくれ、主治医との連携もスムーズに取れている。		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	こちらでの生活状況などの情報交換や、病状などの説明をうけることで、ご利用者にとってどうすることが適切かを連携し決めている。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	病院との連携が24時間体制で受けられることを入居時に説明しており、安心してもらえている。 重症化したときにも対応を病院やご家族と話し合い対応できるようにしている。		
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	病状などが重症化したときには病院と連携し、対応をしてもらえるようになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○ 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	気をつけるべき点や、生活の細かい部分まで伝えられるようセンター方式のシートなどを活用しながら伝達し、生活の変化が少なくなるように努めている。	○	こちらから在宅へ移り住む方が通所施設のサービスを利用する際、ご家族と施設へ情報の提供を行なった。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	トイレ誘導時は、本人とスタッフだけがわかるように耳元で話しかけるなどの注意を行なう。記録類については、所定の保管場所で行い、スタッフ以外の人が見られないようにし、情報の守秘義務を守っている。		
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者個人に合わせ、混乱を招かないよう簡潔な声掛けと、希望や自己決定できる環境づくりを心がけている。	○	行事への参加など無理せず出来るように選択肢を持つなどすることや、レベルに合わせて内容の説明を行なう。
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の希望・ペース・体調に合わせて活動などの誘いも無理がないように対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月に一度、訪問理容が来てくれ、希望者が行なえるようにしている。 また、ご家族の協力により、長年通っている美容室へ行かれる方もいる。		
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	おかずの盛り付け、調理のお手伝いなどをご利用者・スタッフ共に楽しみながら携わることで美味しく食事できるよう支援している。 好みにあわせ、個別に食事の内容を変更したり、誕生日にはご利用者それぞれの食べたいものを聞き、提供している。	○	外食の行事や、外での焼肉、流しそうめんなどの企画を立て、楽しめるよう支援している。 苦手な食べ物が出るときには、代用をつけるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	体の状態や病状により、常に嗜好品が楽しめない方もいるが、お正月や行事などがある際には、看護師と相談し楽しんでもらえるように支援している。		
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ご利用者それぞれの排泄パターンを把握し、排泄チェック表をつけ、確認し声掛け誘導など行なっている。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回の決まった日以外にもご利用者の希望があれば体調を見ながら入浴の対応を行なっている。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣、その時の状況に応じて、安心して休息してもらえるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	洗濯物たたみ、食事の準備、居室廊下の掃除、それぞれのご利用者の出来ることを尊重して、スタッフも一緒に行なっている。	○	農家出身のご利用者が多く、昔行なったことがあるという豆腐作りをホームで取れた大豆を使い、皆と協力し行い食べ、楽しめた。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭は普段預かりを行なっているが、本人の希望に応じて買い物時は本人に支払いをお願いするなど、自分で使える楽しみも味わって貰えるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日ごろから天気や体調を見ながら町内の散歩に出たり、買い物ドライブへ出かけることや、花の水遣りにでるなど、鬱屈しない生活が出来るよう心がけている。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご利用者の希望に応じて買い物や、ご家族と一緒に墓参り、ドライブなどに外出できる機会を持てている。	○	天候を見て、お祭りなどイベントにドライブがてら出かける(花フェスタ、銀座商店街七夕祭りなど)
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に応じて、ご家族や友人などいつでも電話を使えるようにしている。手紙もやり取りが出来るよう支援している。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や友人などの方々が来やすいように椅子を配置したり、お茶の提供、居心地良く過ごしていただける配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内に身体拘束委員会があり、拘束のないケアの重要性を知ることや、勉強会に参加し安全に過ごしていただくための支援に取り組んでいる。		
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は施錠せず、戸外へ行ってもすぐ把握できるよう戸の開閉時に鈴が鳴るようにしており、要注意者がいるときには所在確認を定期的に行なうなどの徹底をする。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○ 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	個室で個々の時間を過ごしていただけるようなれんをつけられたり、夜間は睡眠のさまたげにならない程度の隙間が出来るよう戸にストッパーを付け、安否確認できるようにしている。		
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物などの危険なものは、ご利用者の目に付かないところに保管している。洗剤類は、棚にカーテンをし、目隠ししている。		
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒の危険を把握した時には、対応を検討し、原因となるものを除去するなど迅速に行なえるようにしている。事故後はインシデント・アクシデントの報告用紙に記載し以後どのような対策をとるかなど皆で検討し統一している。	○	誤薬の対策として、翌日の薬セッティング後に、3重のチェックを行なうようにしている。
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応マニュアルがある。心肺蘇生の研修などにも参加し、ホームに戻ってから皆に伝達も行なっている。また、急変時は病院と連携を取り、指示を仰いでいる。		
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練の時には、ご利用者も交え避難の方法などを検討し実施している。運営推進会議にてその状況を伝え、協力をもらえるようにしている。		
72	○ リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒や体調変化など、考えられる危険をご家族と情報共有し、外出のときにも気をつけてほしいポイントなど伝えるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェックや不調が見られた時にもすぐに測定。その結果体調変化などがあった時には、看護師に報告し対応を検討、スタッフ間で対応の統一を図っている。		
74 ○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期薬の処方箋には都度目を通すようにしており、薬の変更があった際にも看護師や主治医に内容の説明を行なってもらい、用法などを守っている。		
75 ○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分補給時にココアや青汁オリゴ糖の活用をしている。また、体操や散歩などの運動を取り入れ日ごろから便秘対策に取り組んでいる。不穏時も原因として便秘が無いかなどすぐ確認できるよう排便チェックもおこなっている。		
76 ○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ご自分で出来る方には毎食後の声掛けや、介助の必要な方にはその都度対応している。		
77 ○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分を取れる時間を食事以外にも取るようにしており、食事・水分のチェック表を付けている。食事があまり取れていない方には、栄養補助品の活用や、回数を増やし少しずつ食べてもらうようにしている。		
78 ○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会があり、感染予防や感染危険物の処理法などの勉強会を行なってくれるため参加し勉強している。また、感染が発生した際にはすぐに情報が回ってくるため感染の予防に努めている。	○	感染予防と処理のマニュアルが配られており、対応できるようになっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は業者より毎日配達してもらえるため、新鮮なものを使っている。 布巾類は1日2回漂白、食器類は1日1回熱風乾燥により殺菌している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前にプランターなどの花を飾り、水遣りの時など近隣の方より声をかけてもらえている。スタッフ手作りの看板もかけるようになった。	○	花の寄せ植えは好評で、ご近所の方やご利用者も気に入っていただけたよう
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節にあわせ廊下の装飾をご利用者と一緒に作成し飾ることや、写真の展示、ご利用者の作品を飾るようにしている。 また、各所にいすの配置や明るさの調節を行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話室や廊下のいす、中庭のベンチなどそれぞれの場所でゆっくり過ごしてもらえるよう環境作りしている。	○	夏場は中庭でお茶を飲みながらのんびり過ごす方も多い。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者の使い慣れた生活用品を持ってくることや、お花やポスターなどを飾っている。 また、仏壇やご主人の遺影をおいていらっしゃる方も安心してつながっているよう。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく、換気・温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	夏場の暑さ対策には、冷房の利用や窓の開閉、換気扇の利用など気温や湿度にあわせ行っている。 冬場もこまめに居室温度を確認し暖房を調節している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○ 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	館内全体がバリアフリーになっており、廊下やトイレ、浴室など要所に手すりがあり歩行も安心して行なってもらえている。		
86	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室やトイレの場所をわかりやすいように色彩や大きさに配慮した目印をつけることや間違いやすい場所にも表示をしている、居室ごとに表札を付けている。		
87	○ 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前には花のプランターを置くことや、中庭には朝顔やそれぞれの花以外にも畑を作り、野菜のお世話を皆で行なっている。	○	今年は落花生とサツマイモを育てており、苗の成長を初めて見たとよこんでもらえている。

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい ○ 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある ○ 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい ○ 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい ○ 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい ○ 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 ○ 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 ○ 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい ○ 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 ○ たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている ○ 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が ○ 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

認知症や体力などのレベルにあわせ、出来る限り生活を楽しんでいただけるよう、ご利用者と一緒に生活の会議を開いたり活動の内容を考えるなど、生活の主体が自分たちであることを実感してもらえる支援を心がけている。